

古河に丸鋸切断機増設

需要増に対応、即納強化

鋼管販売や超精密金属管製造を手掛ける東成鋼管（本社〓東京都中央区、岡部耕喜社長）は主力加工拠点である古河事業所（茨城県古河市）に丸鋸切断機を1台増設した。需要が増えている鋼管の切断加工を高め即納体制を強化する狙い。8月の本格稼働を目指す。

古河事業所に増設し

それぞれ対応する。

増設したCS-100

OAは、高剛性本体

フレームで安定した高

速切断が可能で液量及

ツチパネルによる簡単

入力、データ作成、自

動運転記録を簡単に行うことができる。またワークの種類によって超硬刃、高速度鋼刃の使い分けが可能で、ワークの搬送時の傷を防ぐ、定寸フローティング機能を標準装備している。ギヤヘッドのパックラッシュを低減し、切断精度、鋸刃寿命が向上した。

東成鋼管はOST

（油圧配管用精密炭素

鋼管）、STKMLA

（機械構造用炭素鋼管）、SLP（超軽量薄

肉鋼管）、400Aまで

のSGPW（水配管用

亜鉛めっき鋼管）など

特徴的な鋼管の在庫を

多く有する。受注は昨

年5月を底に緩やかに

増えており直近5月は

前年比3割増となっ

た。岡部社長は「ありがたいことに直近では切断加工の需要が増えている。現場の生産性を高めて、効率よく仕事をしてもらったために切断機を増設した。8月から垂直立ち上げでフル稼働を目指す」と話している。



古河事業所に増設した超硬丸鋸切断機（タケダ機械）

たのはタケダ機械製の定寸装置付超硬丸鋸切断機「CS-100A」。

切断可能径が丸管で25〜101.6ミリ、角管で25〜75ミリにそれ